

高校生との意見交換会

平成29年10月28日三原市議会議事堂において、三原青年会議所主催で「2017みはら高校生議会」が開催されました。午後からは三原市議会主催で、高校生議会で提案のあった内容について、参加された高校生と意見交換会を行いました。高校生の皆さんは、自分たちに何ができるのか、どうしたらよいか考えていただくよい機会になりました。また議員も若い人たちの意見を聞きながら、大きな刺激を受けました。

ここでは、高校生からいただいた主な意見や提案を紹介します。

テーマ「郷土愛あふれる三原にするために」

【意見】

①郷土愛の連帯を広げるために、イベントを利用したコミュニティの拡大を図り、イベントの企画に自分

たちが主体者として関わりたい。

②三原市外に転出した若い世代（大学生など）の三原出身者とも、イベントを通じての「郷土愛」でつながり続け、生涯にわたって三

原とのつながりを維持したい。

③イベントクーポンを作り、三原のイベントに来た人たちにリピーターになつてもらい情報の発信もしてもらいたい。

④キャンプ場の整備、サイ

クリンゲイメントなどの開催を希望する。

【提案】

①いろいろな世代の人たちと一緒に「三原応援隊」を結成したい。それを実現するために相談できる窓口がほしい。

②市からの情報は、広報誌だけでなく、You TubeやInstagramなどでも発信してもらいたい。

③主体者として、三原にかかわる「場」を自分たち高校生がつくっていきたいし、市や議会もそれをキャッチしてほしい。

【参加議員の感想】

高校生の皆さんの意欲が感じられた。また、郷土に対する思いは我々と同じであり、彼らが活動しやすい

環境を準備することが必要と感じた。

テーマ「三原市の中心市街地を活性化させるために」

【意見】

①三原市民への駅前でのアンケートを実施した結果、

「映画館」を中心とした娯楽施設を望む声が多かった。

②若い世代が一日楽しめる場所が三原市内になく、近隣市町に遊びに出ている。

公園等では、ボール禁止の公園が多く、身体を動かせる場所がない。

③友人と気軽に話ができるような場所がほしい。

④女子は同じ場所に多くの店がある他市にショッピング



広島県立三原高校の生徒と総務財務委員



広島県立三原東高校の生徒と駅前東館跡地活用調査特別委員

グに行く。

【提案】

- ① 映画館などの娯楽施設をつくってほしい。
- ② 駅前に立体駐車場を設けてほしい。
- ③ イオン三原店と地下道で駅前を結び、地下街をつくってほしい。

【参加議員の感想】

多くの若者が中心部に集まらないのは、若者目線の施設や誰にも遠慮せずはしゃげる空間がないことが原因であるとわかった。議会としても中高生の居場所づくりを課題としてとらえていく必要があると感じた。

テーマ「人材の『地産地消』〜陸海空の交通利点を活かして〜」について

【意見】

- ① 三原のイベントが身近なものに感じられない。若い人の意見が反映されていないのでは。
 - ② 駅前に食べ歩きができる場所がもっと欲しい。
- 駅前の空き店舗に飲食店があると良い。

③ 西条や河内の図書館は、マンガや幼児用の本もあり多くの人が集まっている。多様性を持った図書館にしてほしい。

けるようにしたい。高校生で企画運営するのも面白いと感じた。

④ 三原には有名で求人が多い企業がないので、就職のために三原を離れる人も多い。

⑤ 三原は交通の要所であり、駅と港が近いことから、港を整備して物流の拠点にしてはどうか。

【提案】

- ① 陸・海・空の交通網が揃っていることを最大限に利用し、新たな企業の誘致をすすめる、働き口を増やすことが若者の市外への流出を止めるため必要ではないか。
- ② 三原駅と三原港を一体的に開発して、にぎわい創出を具体化してほしい。

【参加議員の感想】

市民参加型イベントに若い人の意見を取り入れてい



広島県立総合技術高校の生徒と経済建設委員

テーマ「若者が住みやすいまちへ〜Uターンへの後押し〜」について

【意見】

- 世代別過去5年の三原市データによると20〜30歳までの人口は約550人減少している。
- 市外へ進学後、三原市に戻って来ない若者が多い。
- 1. 職場が少ない

2. 娯楽施設が少ない

この2点が改善され、出産や育児が充実すると、若者が戻り、子どもが生まれ、娯楽が増え、人が増えていくのではないか。

【提案】

- ① 三原城跡・隆景広場の整備を。450年祭後の取り組みとして、桜の木、花見のスポット、ダンスなどの踊り共演やコンテストなどを実施して、にぎわい創出につなげてはどうか。
- ② 「三原すくすく」の拠点を拡大を。

ネウボラのよう
に安心して育
児できる環境を。

③ ベビーボックス
の開発を。

山形県長井市
で行っているよ
うな育児スター
ターキットの配
布（生後12ヶ月
までの赤ちゃん
に必要な約70種
類の育児用品）
を。



学校法人山中学園如水館高校の生徒と厚生文教委員

【参加議員の感想】
参加された高校生7人中6人が卒業後は三原に戻ってきたい、住みたいとのことであった。若者が住みやすいまちになるよう取り組んでいく。

※ネウボラとは：フィンランド語で「相談やアドバイスの場」妊娠から出産、子どもが就学するまでを自治体が切れ目なくサポートしてくれるしくみのこと。